



令和7年度 水稻生育診断情報 No. 4

(令和7年7月28日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL: 0748-46-4391)

(次回は8月下旬の予定)

現在の生育状況

◎作況調査(5月10日移植)の「みずかがみ」「コシヒカリ」では、草丈は平年よりやや長く、茎数は少なく、葉色は平年並～やや淡い。出穂期は、「みずかがみ」が平年より4日早い7月19日、「コシヒカリ」が平年より3日早い7月24日である。

◎気温が平年より高く推移しており、早生品種では、幼穂形成期から出穂期までの日数が平年より短く、平年より早く出穂期を迎えている。中生・晩生品種も同様に、出穂期が早まる見込み。

管理のポイント

◎稲作期間の中で出穂期前後の要水量が最も多く、特に白未熟粒等の発生を軽減するため、出穂期前後各3週間は常時湛水を行う! 水深は3cmから5cmの浅水で管理する。

◎斑点米カメムシ類の発生量が多く、注意報が発表されていることから対策を徹底する。防除は、ほ場周辺に小型カメムシ(アカスジカスミカメ等)が多い場合は乳熟期頃(出穂7~10日後)に行い、大型カメムシ(ホソハリカメムシ類)が確認できるほ場では糊熟期頃(出穂10~20日後)に行う。イネカメムシが多く生息しているほ場では、防除時期を繰り上げ、出穂期に防除する。

◎穂いもち防除を適切に行う。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過(彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
期間					
6月	下旬	かなり高い	かなり高い	やや多い	かなり少ない
7月	上旬	かなり高い	かなり高い	かなり多い	かなり少ない
	中旬	かなり高い	高い	かなり多い	少ない

※気温 <±0.5℃:平年並、±0.5~1.0℃:やや高い(低い)、±1.0~2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)

※日照時間 <±5hr:平年並、±5~10hr:やや多い(少ない)、±10~15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)

※降水量 <±10mm:平年並、±10~20mm:やや多い(少ない)、±20~30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

(2) 近畿地方1か月予報(7/26~8/25までの天候見通し)【大阪管区気象台7月24日発表】

■向こう1か月の天候は、県北部は平年と比べて晴れの日が多く、県南部は平年同様に晴れの日が多い。

■気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込み(高い確率70%)

■降水量はほぼ平年並の見込み。

■日照時間は、県北部は平年並が多く、県南部はほぼ平年並の見込み。

2 生育状況【農業技術振興センター水稲作況調査による。表1、表2および後掲グラフ参照。】

- 草丈は、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とともに平年よりやや長い。(7/10 調査)
- 茎数は、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とともに平年より少ない。(7/10 調査)
- 葉色は、「みずかがみ」は平年よりやや淡く、「コシヒカリ」は平年並。
- 主幹葉数は、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とともに平年並。
- 「きらみずき」は前年と比べて、草丈は同等、茎数はやや多く、葉色は淡く、葉数は多い。
- 幼穂形成期は、「みずかがみ」は平年より1日早く、「コシヒカリ」は平年より2日早い。「きらみずき」は前年より1日早い。
- 出穂期は、「みずかがみ」は平年より4日早い7月19日、「コシヒカリ」は平年より3日早い7月24日であった。

表1 令和7年(2025年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主幹葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	みずかがみ	86.0	80.6	107	83.9	464	499	93	495	41.6	41.2	101	43.5	13.1	12.5	+0.6	13.4
	コシヒカリ	86.9	80.3	108	80.2	478	546	88	534	39.0	37.8	103	36.8	12.3	11.9	+0.4	12.2
	きらみずき	68.6	-	-	67.9	504	-	-	440	36.0	-	-	40.8	12.4	-	-	11.7
7/20	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	36.7	38.5	95	40.1	13.3	13.3	0.0	14.0
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	38.8	38.2	102	38.5	13.0	13.1	-0.1	13.3
	きらみずき	77.5	-	-	75.1	465	-	-	426	35.2	-	-	39.3	13.8	-	-	12.9

※移植日：5月9日(播種日：4月18日)。栽植密度：18.5株/m²、植付本数：3本/株

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は過去10年平均(平成27～令和6年)の値。

※「きらみずき」は令和6年から有機質肥料を用いて調査開始

7月24日現在の生育状況



みずかがみ



コシヒカリ



きらみずき

表2 水稲作況調査 生育ステージ(7月25日時点)

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月29日	6月30日	1日早い	6月29日
出穂期	7月19日	7月23日	4日早い	7月21日
成熟期	未	8月25日	-	8月23日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月1日	7月3日	2日早い	7月2日
出穂期	7月24日	7月27日	3日早い	7月24日
成熟期	未	8月31日	－	8月27日

品種：「きらみずき」

生育期	本年	平年	較差	前年(参考値)
幼穂形成期	7月13日	－	－	7月14日
出穂期	未	－	－	8月5日
成熟期	未	－	－	9月15日

※移植日：5月9日(播種日：4月18日)。栽植密度：18.5株/m²、植付本数：3本/株

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は過去10年平均(平成27～令和6年)の値。

※「きらみずき」は令和6年から有機質肥料を用いて調査開始

3 今後の管理

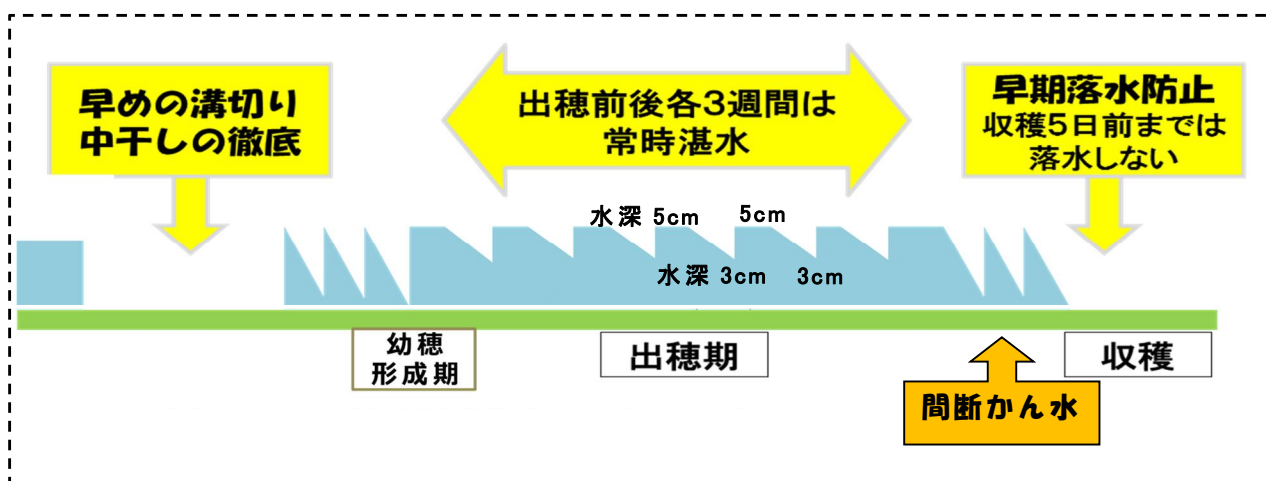
(1) 適正な水管理

■出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う(図1)。

■常時湛水管理にあたっては、常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3cmから5cmの浅水で管理する。

■落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる(図2)。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



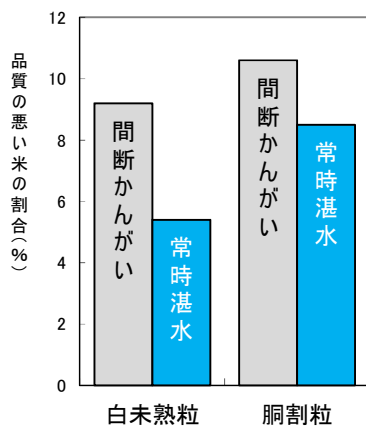


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係
(滋賀農技セ 2006年「コシヒカリ」)

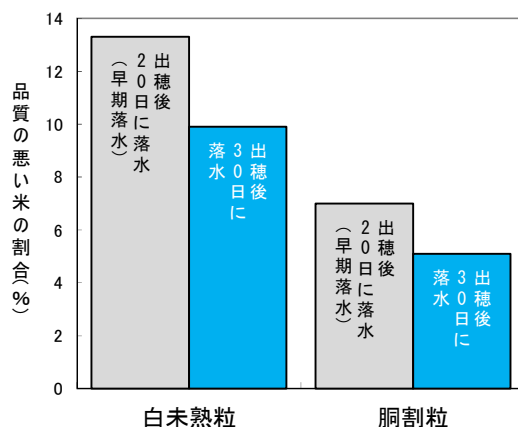
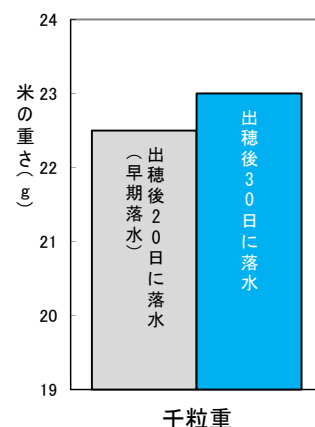


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係
(滋賀農試湖北分場2004年「コシヒカリ」)



出穂前後の常時湛水で
白未熟粒、胴割粒が減ります

収穫直前まで入水すると、白未熟粒、
胴割粒が減り、収量も増加します

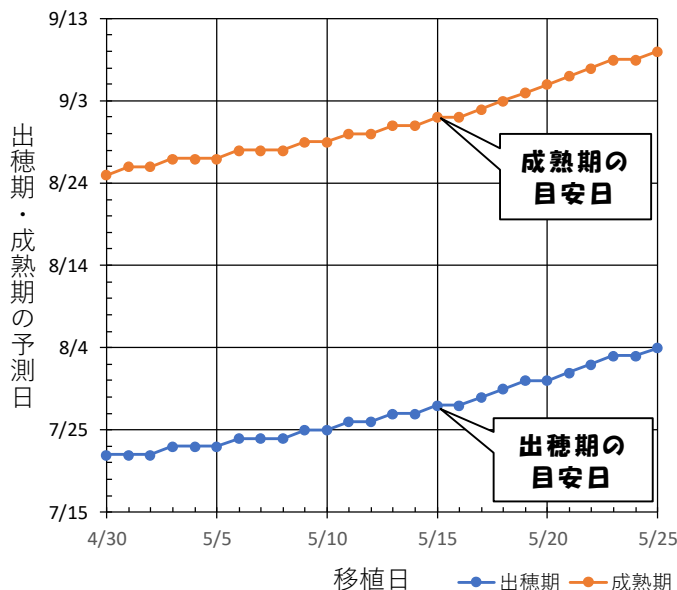
(2) 適期収穫

■出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあり、本年の気温も高く推移する見込みのため、早生品種(「コシヒカリ」等)だけでなく、中生品種(「秋の詩」等)でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

■収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂(粃)の色を手にとって確認し、黄化粃が85～90%になった頃に収穫する(図3)。

特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

【参考】「コシヒカリ」の出穂期および
成熟期の目安日(今後の気温が平年並の場合)



☆登熟日数の目安

品種名	出穂期から成熟期までの日数
みずかがみ	平均33日 (32～37日)
コシヒカリ	平均35日 (32～39日)
きらみずき	平均38日 (33～43日)

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は、作況調査の過去10年(平成27～令和6年)の値。
※「きらみずき」は奨励品種決定調査の過去10年(平成27年～令和6年)の値

※農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)における「コシヒカリ」の稚苗移植の予測。

近江八幡市安土町大中より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる

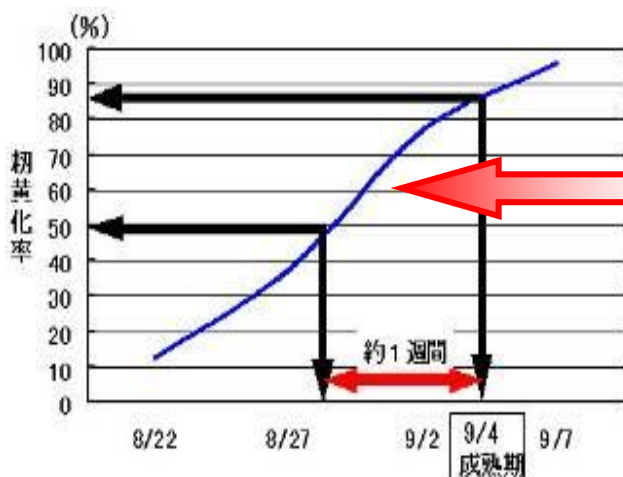


図3 成熟期前の籾黄化率の推移(農業技術振興センター2008年「コシヒカリ」)

注) 調査方法: 黄化籾の標準見本色を基準に黄化籾と青籾を目視で計数。

【適期収穫のポイント】 ★葉色に惑わされず、ほ場で穂を手にとって確認する。

収穫適期の目安	①穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃
	②籾黄化率85～90%

★収穫7日前の目安: 籾黄化率50%程度・・・収穫適期判定板を活用

適期収穫で割割粒を減らそう!
収穫適期判定板

・使い方

- ① ほ場全体を見て、平均的な場所に入ります。
- ② 穂に判定板(黄板)の色がついている部分をあてます。
- ③ 黄色く熟した籾(モミ)の割合を見て収穫時期を判断します。
(判定板の色は熟した籾の色の目安です。)

★葉色に惑わされずに、穂の顔色を見て判断してください。

——特に8月～9月の気温が高くなった場合は要注意——

※近年、出穂後(8月～9月)の気温が高く、登熟日数が短くなってきています(下の表を参照)。
※最も短い年は、「コシヒカリ」で30日、「日本晴」で32日、「秋の風」で34日となりました(平成28年)。

年次	品種名	コシヒカリ	日本晴	秋の風
平成3年～12年		37日 (34～40日)	41日 (34～48日)	—
平成13年～22年 (最近10年間)		33日 (30～37日)	36日 (32～40日)	39日 (34～44日)

近江米振興協会



(3) 病虫害防除

7月23日発表の「病虫害発生予報第7号」参照

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5555259.pdf>



① 斑点米カメムシ類【発生時期：早、発生量：多】

→ **注意報第3号「斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ」を確認！**

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5553871.pdf>

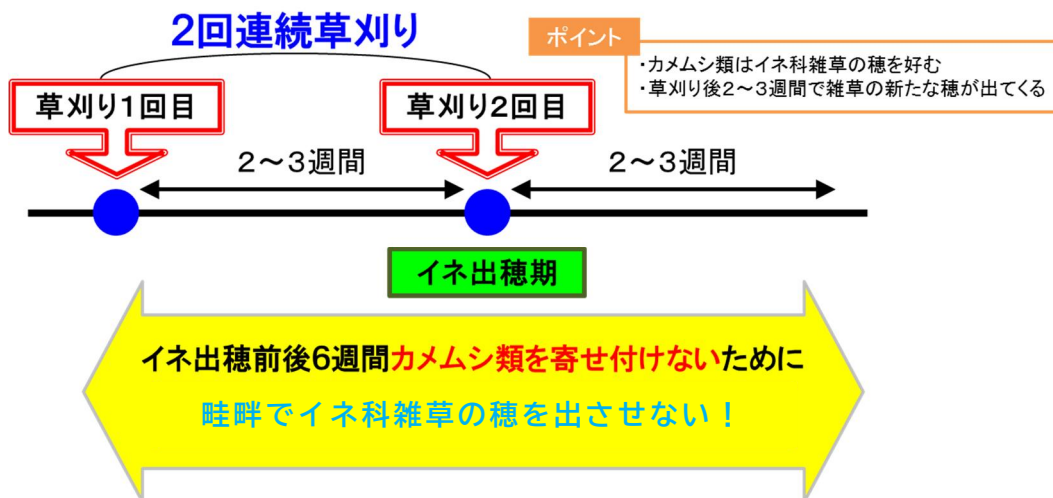


- 出穂した畦畔のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類がほ場周辺に誘引される要因となる。草刈りによるイネ科雑草の出穂抑制は、概ね3週間程度であるため、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃に除草する。
- 雑草管理が不十分で畦畔や雑草地にイネ科雑草の出穂が多く認められる場合、本田の出穂後に除草すると斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草する場合は、本田での薬剤防除前日に実施する。
- 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に抜き取る。
- ほ場周辺の畦畔や雑草地にアカスジカスミカメの発生が多いほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。穂揃期に斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に出穂10～20日後）に防除する。
- イネカメムシが多いほ場では、出穂期に防除する
- 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。

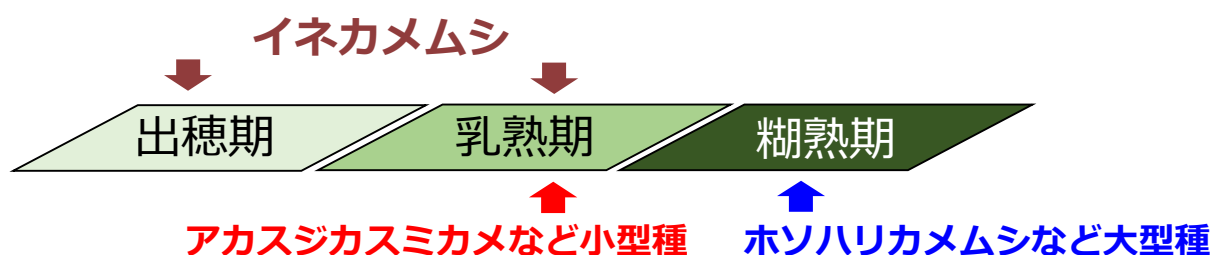
◇斑点米カメムシ類対策

畦畔2回連続草刈りでカメムシ防除

- ① 出穂2～3週間前と出穂期の2回連続で、畦畔の草刈りを行う。
- ② 畦畔でイネ科雑草の穂を出させない。
- ③ 地域で話し合い、一斉に行う。



◇斑点米カメムシ類の防除時期



イネカメムシ



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



クモハリカメムシ

②穂いもち【発生時期：早、発生量：やや少】

■穂いもちは、ほ場の状況（水稻の生育やいもち病の発生状況）をよく確認し、適期に防除する。

- ・粉剤、液剤（水和剤・乳剤等）は穂ばらみ期～出穂期に散布する。穂いもちの発生が多い時はさらに穂揃期～乳熟期にも追加散布する。
- ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。また、粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後1週間は落水やかけ流しは行わない。

■薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループの薬剤を連用しない。

③紋枯病【発生量：やや少】

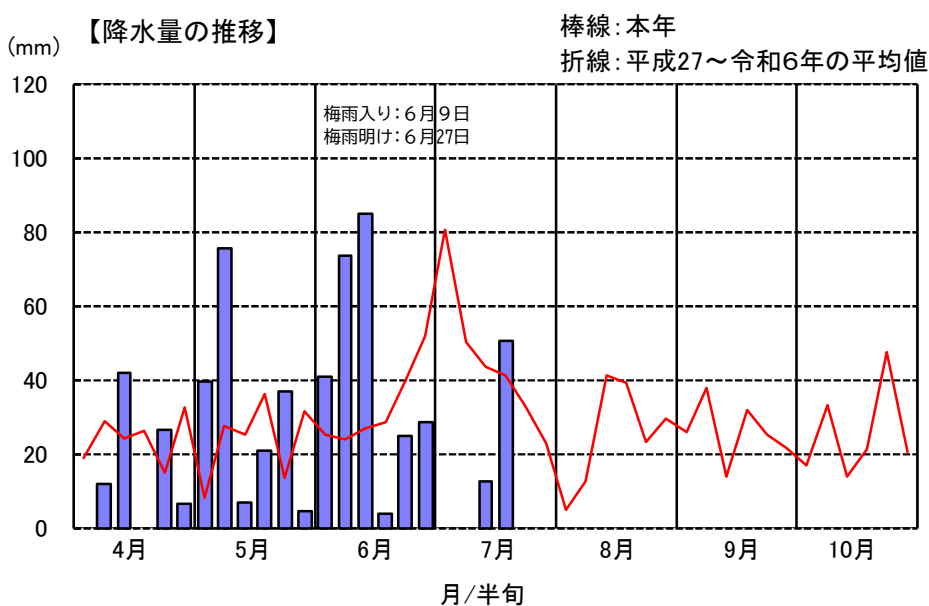
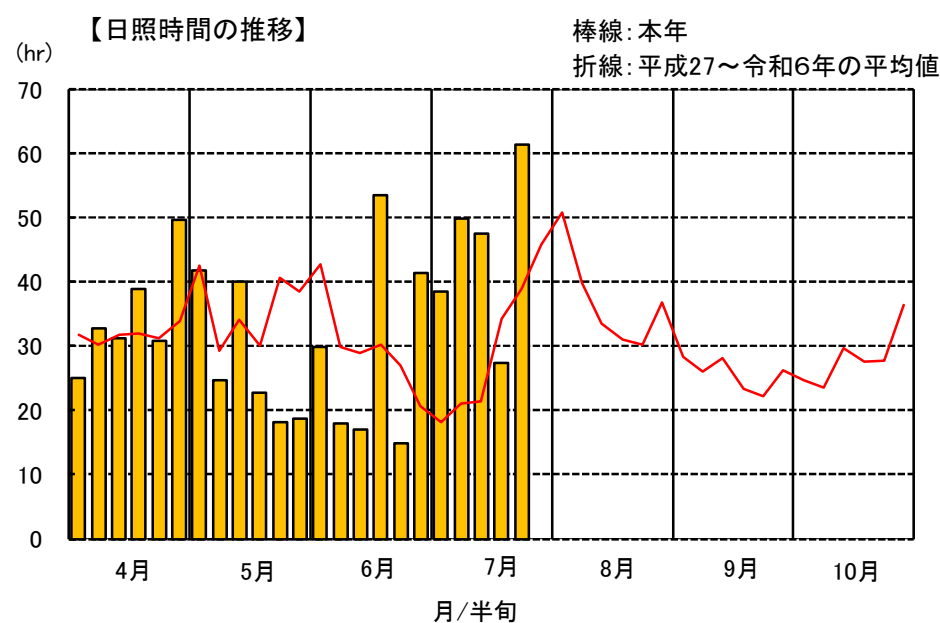
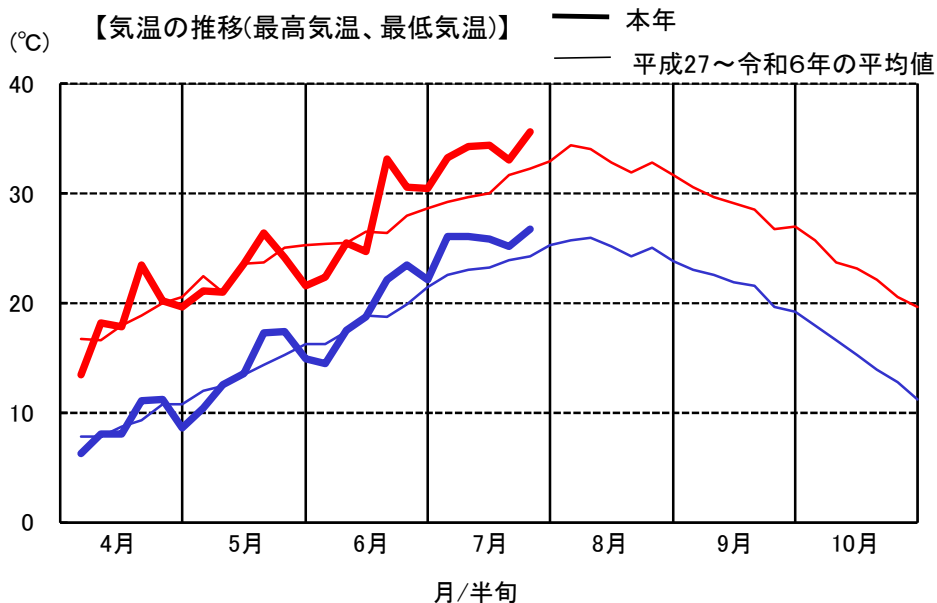
■前年の発生の多かったほ場では特に注意する。

■防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15～20%以上。

■病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

■粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後1週間は落水やかけ流しは行わない。

令和7年(2025年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



注) 平年は平成27～令和6年の平均値.

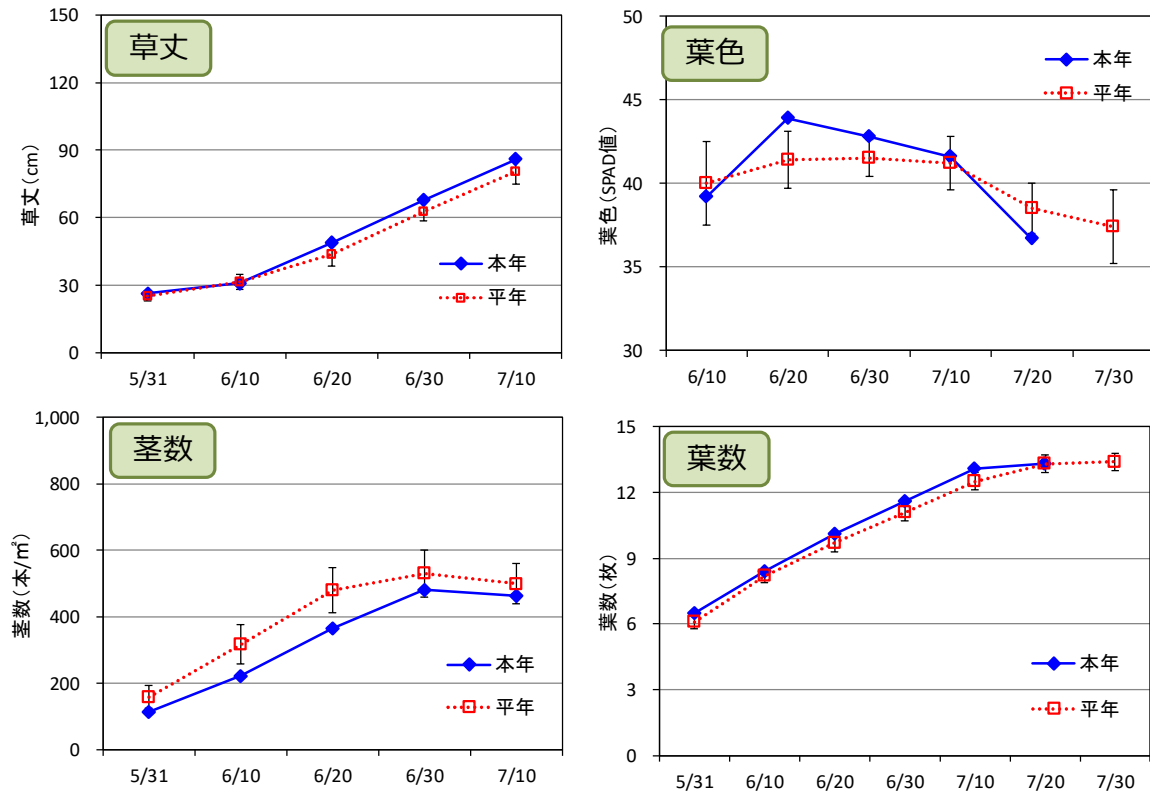
5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値.

令和7年(2025年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

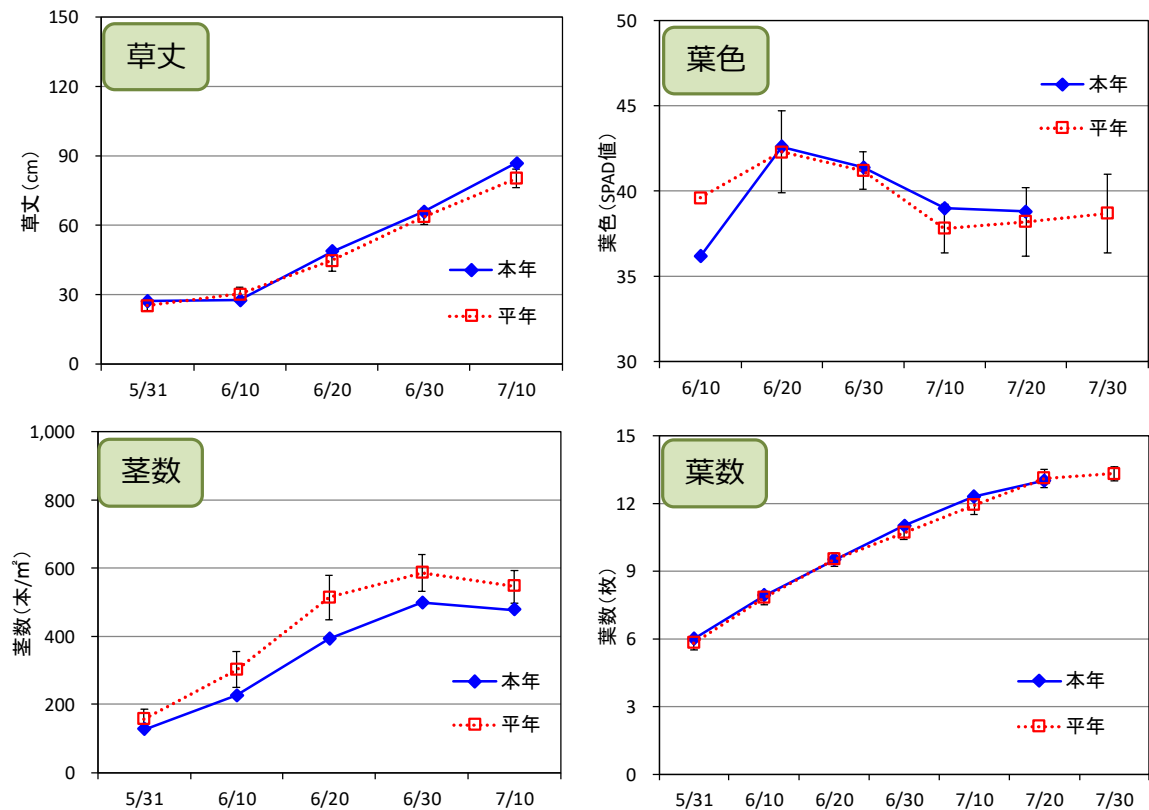
みずかがみ

播種: 4月18日、移植: 5月9日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



コシヒカリ

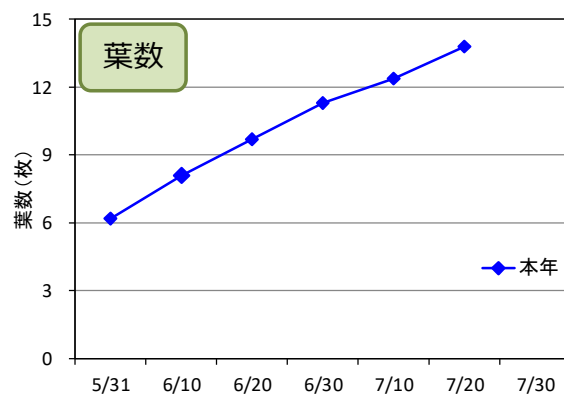
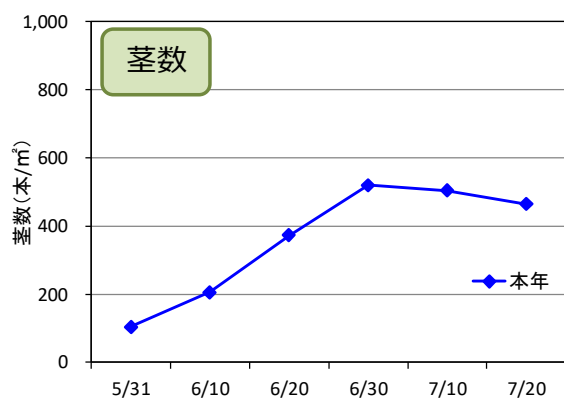
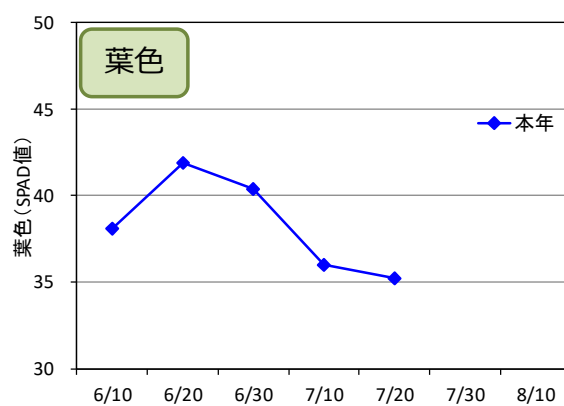
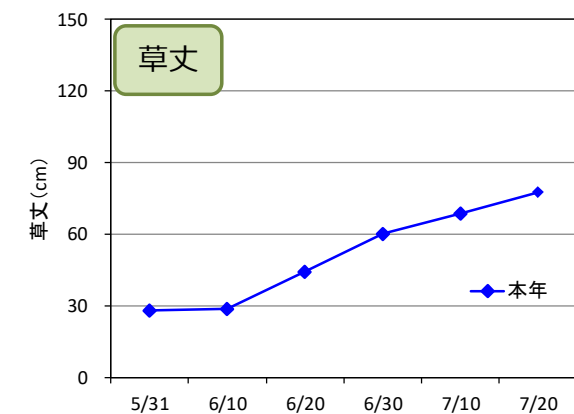
播種: 4月18日、移植: 5月9日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



注) 平年は過去10年(H27年~R6年)の平均値。

きらみずき

播種: 4月18日、移植: 5月9日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



～農業情報の配信について～

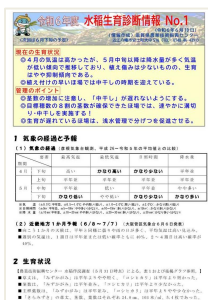


- 滋賀県では、「防災・防犯等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報やイベントのご案内など」を、ご希望の方へ情報配信しています。
- 台風等の気象災害や病害虫の発生が懸念される際に農業技術情報や農業に関するイベントの案内など農業者向けの情報も配信しています。農業に関するタイムリーな情報収集手段の一つとして、是非ご利用ください。
- 詳しいサービスの説明、ご利用上の注意及び利用規約は下記の滋賀県ホームページをご覧ください。

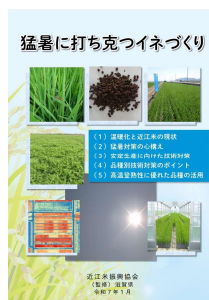
滋賀県ホームページ「しらが（しらせの滋賀情報サービス）ご案内」
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/306374.html>



収量・品質確保のための参考資料



水稲生育診断情報
(滋賀県 HP)



猛暑に打ち克つイネづくり
(近江米振興協会 HP)



水田土づくりマニュアル
(滋賀県 HP)

【参考サイト】

農業技術振興センター
 病害虫防除所
 彦根地方気象台
 早期天候情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougyicenter/>
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>
<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/>



農業技術振興センター



病害虫防除所



彦根地方気象台



早期天候情報



Instagram始めました

滋賀県農業技術振興センターの
公式アカウントです
各研究部門・農業大学校・
農業革新支援部から
旬の情報やお知らせを
お届けします
フォローをお願いします！
(写真は配信内容イメージです)



NOUGI_SHIGA

各研究部門
農業革新支援部



SHIGA_NOUDAI

農業大学校



滋賀県農業技術振興センター